



03年7月、金大中元韓国大統領の自宅を訪問



いた先生の勧めで、87年に洗礼を受けました。その時に頂いた聖書は今でも私の座右の書です。忙しいかまけて、毎日曜日に教会に通う敬虔(けいけん)なクリ

ル市の「自宅にうかがい、面会することができました。東大で講演してもらおうとお願ひしたところ、05年5月に安田講堂での歴史的な講演が実現しました。以来、毎年のように「自宅を訪ねました。09年8月に亡くなる時も、前日に病院で見舞って、当日に彼の秘書と昼食を共にした直後に訃報に接しました。

帰国して結婚、埼玉県上尾市の公団住宅で暮らし始める一方、明治学院大学の非常勤講師として教壇に立った。

日本が黄金期を迎える1980年代でした。初めての著書「マックス・ウェバーと近代」を出版したのもこの頃です。日本の最近の事情をよく知らないまま、上尾市で生活を始めた。そんな時に外国人指紋押なつ問題が起きました。郷里の熊本に帰って両親が指紋を押すなんておかしかばい」と言うのを聞いた。日本での生活に一度も不満を漏らしたことがない父母がこう発言するのを聞いて、「おかしいことはおかしい」と義憤を感じました。そんなことから上尾市で指紋押なつを拒否すると、埼玉県の拒否第1号として有名になってしまった。

### 指紋押なつ拒否で有名人になり戸惑う

### 市民運動のつながりで洗礼、聖書は座右の書

### 日韓融和に努めた金大中氏の言葉を胸に

引っ込み思案の性格なのに、急に有名人になってしまつて戸惑いました。しかし、多くの地域住民と知り合いになって、地域に親近感を覚えたことも事実です。市民運動のつながりから、ローカルテレビの討論番組に初めて出たのもこの頃ですね。

当時、在日問題に悩んでいた私を精神的に支援してくれたのは、市民運動でも中心的に活動していた土門一雄牧師でした。私淑して

スチャンではありませんが、キリスト教は私の精神的支柱です。最近、ますます聖書に向かう気持ちが強まっています。大学院の恩師だった藤原保信先生が死の直前、洗礼を受けたことを後で知り、奇遇を感じました。

国際基督教大学準教授などを経て、98年、東京大学教授となる。テレビの出演が目立ち始めたのもこの頃だ。96年に東大の社会情報研究所に

音で悩んだ時代もあり、常にゆっくりしゃべることを心がけてきました。攻撃型の性格ではないので、落ち着いてしゃべる姿が、雄弁なコメンテーターが多い中で、かえって目立つのでしょうか。

21世紀に入って、尊敬する韓国の金大中元大統領と何度も会見たことも、姜さんの人生で大きな出来事だ。

日本のホテルから韓国外交官によって拉致された事件を、青春時代に目の当たりにしていますから、金大中氏が大統領に上り詰めたことを青天のへきれきだと思っていました。ぜひお目にかかりたいと思ひ、2003年7月にソウ

金大中氏の功績は語り尽くせませんが、最大の功績は日韓両国、東アジアの融和を常に考え、日韓の関係改善に努めたことです。ノベル平和賞の授賞理由は南北和解に貢献したことです。日韓融和の努力も理由の一つになっています。本人によると、5度も生命の危険にさらされながら、決してあきらめようとはしなかった。金大中氏がいなかったら、現在の韓国の政治はどうなっていたか想像を絶します。何よりも文化開放政策を推進し、日本の今の韓流ブーム、韓国の日本ブームがあるのも彼のおかげです。

個人的には在日問題の悩みを金大中氏に相談したことがありません。その時、彼は「当事者が動かずして誰が助けてくれるのですか」と語りました。「まず君たちが行動することが大事だ」と勇気づけられました。もう一つ「民主主義はただでは獲得できない」という言葉も忘れられません。

(聞き手は編集委員 木戸純生)

# 日韓の絆を強める